

## 伝統食列車 in 庄内町 ～庄内地方の郷土食を堪能し、 放射能問題を熱く討論!!～

12月2日(金)から4日(日)、関西を拠点とした全国各地の主婦や生産者らでつくる「日本の伝統食を考える会」が主催するツアー「伝統食列車」が町内各所で行われました。この催しは、全国各地の伝統食を訪ね、食や農業、暮らしの在り方を考えるもので、庄内町では余目町農協が現地実行委員となり、大阪や京都、東京などから訪れた約50名のツアー客を受け入れました。

ツアー期間中は、雑煮やサケとそうめんのあんかけ、ハタハタの田楽など、地元女性たちが作った数多くの郷土食が出されました。それを見た参加者は「きれい、おいしそう！」などと写真を撮りながら、地酒とともに味わっていました。また、

このツアーでは、風車村やウィンドファームの風力発電を見学し、再生可能な自然エネルギーについて考えるとともに、最近問題となっている放射能汚染について、福島県北農民連副会長や静岡県無農薬茶の会代表らを招いて「放射能汚染の下での食と農、エネルギー問題」の討論会を行い、会場に集まった皆さんと熱く語り合いました。



# 復興に向かって ⑤

## シンボルプロジェクト(その1)

今回から2回に渡って、シンボルプロジェクトについて紹介します。

震災復興計画では、復興を先導し、他の取り組みなどへの波及効果が期待される事業を、5つのシンボルプロジェクトとして、各事業の連携を図りながら、戦略的に展開することとしています。

### シンボルプロジェクト①「津波の教訓伝承プロジェクト」

津波の教訓伝承プロジェクトは、震災による犠牲者を慰霊するとともに、二度と悲劇を繰り返さないために企画するプロジェクトで、津波の記憶や教訓を風化させず、後世に伝承するため「津波防災の日」の制定や「災害記録の作成」、「震災復興祈念公園」の整備、「語り部の育成」などの事業を計画しています。

### シンボルプロジェクト②「被災者の生活支援プロジェクト」

被災者の生活支援プロジェクトは、すべての町民が安心して暮らせるように、様々な支援を企画するプロジェクトで、当面は仮設住宅における生活支援のほか孤立化や生活不活発状態への防止、住民の心のケアなどに取り組む事としています。



平成24年1月から、震災復興推進課を「復興事業推進課」と改組しました。

問い合わせ 復興企画課 ☎46-1371 復興事業推進課 ☎46-1379

## 観光ネット 最前線 27

### 参加者募集! 白石・南三陸復興支援交流事業 スキーと温泉でゆっくりしよう!! 「冬の白石あったかツアー」

- ◇実施日 2月4日(土)～5日(日)
- ◇対象者 小学生以上のお子さんがいるご家族(お子さんのみの参加は原則不可)
- ◇募集人数 30名  
※申込多数の場合は抽選となります。また、一定の人数に満たない場合は、開催しないことがあります。
- ◇参加費 無料(1日目スキー場での昼食代は各自負担です)
- ◇ツアーの内容  
＜1日目＞  
白石スキー場でのスキー体験⇒スパッシュランドしろいしに宿泊(夕食での交流)  
＜2日目＞  
ホワイトキューブにて「ドラえもんファミリーステージショー」鑑賞⇒白石城見学など
- ◇申込方法 「スパッシュランドしろいし(☎0224-29-2326)」に電話にて申し込みください。
- ◇応募締切 1月16日(月)午後5時まで  
※詳しい行程や集合場所などは、1月20日(金)頃までに参加者に直接お知らせします。おおむね、出発は2月4日(土)の午前8時頃で、帰りの到着は2月5日(日)の午後4時30分頃を予定しています。

問い合わせ 産業振興課観光振興係 ☎46-1378 一般社団法人南三陸町観光協会 ☎47-2550

## 夢大使 リレー通信 ⑥1

各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、TBCラジオのパーソナリティとしておなじみの佐々木真奈美さんです。

## 絆を繋ぐ一年に

夢大使 佐々木真奈美さん (仙台市)



まず先に、この度の震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますと共に、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

皆さんが幾度眠れない夜を過ごし、やりきれない毎日を過ごされたかと思う言葉では言い表せないほど胸が苦しくなります。毎日、南三陸町の皆さんの情報に触れる度に一喜一憂し、案じています。私は…と言うと、まだ皆さんのために何もできていないという焦りを感じています。故郷のために自分に何ができるのか? 答えが見つからなくてジタバタ時間を重ねていっているというのが正直なところ。震災後、番組が再開し、自分にできることを探しながら今日まで来た気がします。

- 一、とにかく伝えること。
- 一、一瞬でも笑顔になっていただくこと。
- 一、ラジオを通してそばに居ること。
- 一、ずっと情報発信し続けること。

方言の持つ豊かさ、暖かさ、優しさ。そういったものに触れることで少しでも元気が出るように、と祈る気持ちで放送しています。沿岸部の美容院のチラシに「パーマ¥3,500カット¥1,000」その下にでっかく「このげ、顔剃り無料」と書いてあった話。笑いながら心がほっこりしとほどる気がします。こういった日常の小さな「ほっこりほどる」の積み重ねが「心の復興」に繋が

るんじゃないかなあ、とっていて、微力ですがそのお手伝いができれば嬉しいです。

デビット・ロモ氏の著書「災害と心のケア」の中に、災害に遭った方々と町や地区などのコミュニティの回復プロセスというのが載っています。今の状況は「幻滅期」という時期にあたるそうです。災害後2カ月から1～2年の間、皆さんの我慢が限界に達し、いろいろな事にやり場のない怒りを感じ、また、生活の再建と個人的な問題の解決に追われ、地域の連帯や共感が失われると記されています。それを乗り越えると「再建期」を迎えるそうです。今から1～2年が一番苦しい時期なのかもしれません。その時に、私に何ができるかをしっかり見据えて、皆さんに寄り添いたいと思っています。

平成23年の流行語は「絆」でしたが、今年はその絆を「繋ぐ」一年であって欲しいと思っています。一人ひとりの心に生まれた復興の芽を未来に向けて繋ぐ一年でありますように。頑張りすぎないでマイペースでいいんです。時々前に進めなくて立ち止まってもいいんです。その時は、私が頑張りますから。(笑顔になれるような放送ができるように頑張ります。)

今日を繋いでいけば確実に明日になります。小さな「ほっこりほどる」気持ちを皆さんのペースで繋いでいってください。